

「“変化に強い”インバウンド対策」が急務に

【inboundTV】宿泊経営を圧縮しないコスト見直しを支援

新型コロナウイルスの感染拡大で、日本の宿泊業は試練の時を迎えている。目の対策はもちろん、事態が長期化する可能性も視野に入れた運営・サービスの見直しが必要となっている。世界的な渡航制限が強化され、大型イベントも開催延期を余儀なくされている状況の中、最も見直しが必要なのはインバウンド対策だろう。海外放送サービスのinboundTV(仙台市泉区)は「来て当たり前」の「インバウンド対策」から「来なくなっても対応できる」インバウンド対策に切り替えていく必要がある(アドバイザー・渡邊ちひろ氏)と訴える。



inboundTV(仙台市泉区)アドバイザー

渡邊ちひろ氏

契約チャンネル変更やサービスの一時停止も

海外放送をホテルなどの客室テレビ向けに配信するサービスを提供するinbound

時停止に対応する準備を進めている。

同社グループの日本情報通信東北(仙台市泉区)代表取締役社長村上和広氏は「今回の事態は地元で経験した2011年の東日本大震災を超えるダメージがあるとみている。多くの海外放送サービスは、利用実績に関係なく契約期間中は定額料金が発生する。外国人旅行者がほとんど見込めない現状では、来



海外放送サービス

インバウンド対策の代表格が、客室テレビによる海外放送サービスだ。かつては通信衛星放送(CS)やビデオオンデマンド(VOD)によるチャンネルの一つとして用意されていたが、テレビの多機能化や映像配信技術

古くからの契約に縛られていないか

4月発売「inboundTV-Pocket」

「inboundTV-Pocket」は、外国人旅行者が自身の母国語放送をスマホやタブレット等で手軽に視聴でき、宿泊施設も手軽にインバウンド対応が始められる。

宿泊施設は、宿泊客にPINコード(個々の利用者専用の暗証番号)が印刷されたスクラッチカードを宿泊客に配るだけ。宿泊客はスクラッチを削ってPINコードを取得し、inboundTV-PocketのサイトにPINコードを入力、見たい放送局を選択するだけで母国語のリアルタイム放送が視聴できる。

利用料金は、実際にサービスが使われた＝視聴した時点で発生。カードを仕入れること自体に費用はかからず、また、宿泊客自身の機器から視聴してもらうため専用機器の購入・設置工事なども発生しない。宿泊施設に初期投資・ランニングコストの負担がほぼ無いことも、inboundTV-Pocketの大

きな特徴だ。

サービスの提供方法は、スクラッチカードを宿泊客に販売する「販売用カード」と、宿泊特典やノベルティなど、宿泊料金の中に含めて配布する「インクルードカード」の2種類。販売用は利用日数に応じて1day・3days・7daysの3プランを用意し、ホテル・旅館は販売することで手数料収入が得られる。また、インクルード販売(宿泊料を含む)にも柔軟に対応できるようにしている。

4月現在で視聴できるのは、中国のCCTV、韓国のYTN、台湾のCti TV、米国のVOA、タイのTGNなど10カ国12チャンネル。inboundTV本体が提供する24チ

ャンネルに比べれば少ないが、今後、配信許諾が取れ次第チャンネル数を増やす。

視聴以外のコンテンツとして、各国の大使館・領事館のHPリンク集や国内地方自治体の動画リンク集、カードを取り扱うホテルのリンク先なども用意。これらのコンテンツには視聴利用期間が過ぎた後もアクセスでき、旅行中の急なトラブル対応や帰国後の再来日喚起など、タビナカ・タビアトの情報源としても機能する。

同社では、inboundTV-Pocketが試用できるPINコードツールの無償送付を行っている。今だからこそ、インバウンド対策経費の見直しの参考に、まずは試してみたいだろうか。【試用PINコードツール申込先:0120-125-551】

の進化が進んでいるにもかかわらず、古くからの契約に縛られ、サービスの見直しができずにいるホテル・旅館は少なくない。

inboundTVでは、平時から視聴チャンネルの選択や変更ができ、宿泊客層の変動や海外放送ニーズ

も対応できる「inboundTV-Pocket」を企画。4月からサービスの提供を始める」と語る。

訪日外客数の急激な変動に耐えうるサービスを

宿泊客のスマホから視聴できる

